## 黙想:聖ステファノ 殉教者(12月26日)

黙想のテーマ:「聖ステファ ノの殉教と私たちの使命」 「キリスト教は常に新しいも の」「愛徳による平和と喜び の種まき人」

聖ステファノの殉教と私たちの使命

キリスト教は常に新しい

愛徳による平和と喜びの種まき人

「ステファノは恵みと力に満ち、す ばらしい不思議な業としるしを民衆 の間で行っていた」(使徒言行録6・ 8)。イエス・キリストの教えを信 じる人は次第に多くなっていきまし た。しかし、多くの人がキリストを 知らないため、あるいは曲解してい たため、イエスを救い主として認め ませんでした。「ある者たちが立ち 上がり、ステファノと議論した。し かし、彼が知恵と"霊"とによって語 るので、歯が立たなかった。そこ で、彼らは人々をそそのかして『わ たしたちは、あの男がモーセと神を 冒涜する言葉を吐くのを聞いた』と 言わせた」(使徒言行録6・9-11)。

聖ステファノはキリスト教の最初の 殉教者です。彼は、石を投げる人々 のため祈りながら聖霊に満たされて 亡くなりました。「昨日、キリスト は私たちのために布で包まれまし た。そして今日、主はステファノを 不死の衣で包まれます。昨日、幼子

キリストは狭い飼い葉桶に寝かされ ました。そして今日、勝利者ステ ファノは広々とした天国に迎えられ ます。主は、多くの人を高めるため にお降りになります。私たちの王 は、その兵士たちを称揚するため、 遜られます┃団。私たちも、言葉 で、そして何よりも福音の喜びの溢 れる生き方で、イエス・キリストの メッセージを広めるという素晴らし い使命を受け取りました。聖パウロ はあの出来事を目の当たりにして、 ステファノの証しに感動し、回心後 は、自身の使命遂行のための力をそ こに見出したことでしょう。

「善は、つねに広がっていくものです。真理や美に関するすべての真正な体験は、おのずから広がりを求め、深い解放を体験した人はだれでも、他者の必要に対して敏感になります。 (…) 熱意を取りもどし、たとえ涙のうちに種を蒔かなければならないときでも、甘美と慰めに満ち

た福音宣教の喜びを保ちましょう。 現代世界は、時には苦悩のうちに、 時には希望のうちによき知らせを求 めています。願わくは、現代の人々 が、悲しみに沈んだ元気のない福音 宣教者、忍耐を欠き不安に駆られて いる福音宣教者からではなく、すで にキリストの喜びを受け取り、

(…) 生活があかあかと輝いている 福音宣教者から、福音を受け取りま すように」[2]。

「(彼らは)偽証人を立てて、次のように訴えさせた。『この男は、この聖なる場所と律法をけなして、一向にやめようとしません』」(使徒言行録6·13)。今日でも聖ステファノの時のようにキリスト教の教義であられるときがあり得ます。で生からいつも私たちは自分自身の生活を通して、その永遠の若さを示さな

のため彼らを強めるものでした。それと同時に愛徳の賜をくださったのです。 (…) キリストが天から地上にもたらされた同じ愛徳で、ステファノを地上から天に引き上げたのです。同じ愛徳は最初、王によって表され、それから兵士のうちに輝き出たものです」[4]。

私たちも、現代のあこがれや心配事 に新たな意味を与える、福音の喜び でこの世を照らしたいと望んでいま す。私たちの使命遂行における知恵 と大胆さを主にお願いしましょう。 「オプス・デイの偉大な使徒職の基 はここにあります。私たちを待って いるこの群衆に、何が神に正しく導 く道なのかを示すことです。それゆ え、子供たちよ、皆さんは主の慈し みを述べ伝える神的な役目に呼ばれ ています。misericordias Domini in aeternum cantabo、『主の慈しみを とこしえにわたしは歌います』(詩編 89.2) | 1510

「ステファノは聖霊に満たされ、天 を見つめ、神の栄光と神の右に立っ ておられるイエスとを見て、『天が 開いて、人の子が神の右に立ってお られるのが見える』と言った」(使 徒言行録7・55-56)。最初の殉教者 は最後の瞬間まで、私たちの回心を 求めておられる神のいつくしみを示 しています。キリストと同じような 言葉で祈りつつ亡くなった聖ステ ファノは、ここでも神なる師と全く 同じでした。「人々が石を投げつけ ている間、ステファノは主に呼びか けて、『主イエスよ、わたしの霊を お受けください』と言った。それか ら、ひざまずいて、『主よ、この罪 を彼らに負わせないでください』と 大声で叫んだ。ステファノはこう 言って、眠りについた」(使徒言行 録7.59-60)。使徒としての私たちの 使命も祈りと償いに基づいていま す。「祈りがないなら、神の絶え間

ない現存がないなら、そして償いがないなら、(…)真の個人的使徒職はありえない | [6]。

聖ステファノは、敵をゆるしなが ら、祈りの内に亡くなりました。聖 ステファノは、自身を十字架に磔に した人たちに対しそのように振る 舞った主の模範に完全に倣いまし た。それゆえ、彼は「豊かな善で悪 を溺れさせる | mという態度に表さ れる私たちの使徒的使命の模範で す。私たちを取り巻く社会の状況に 時おり苛立つようなことがあるとし ても、神の子である私たちには、 「キリストがお与えになった平和と 喜びを人々にふりまく人」図となる 使命があるのです。聖ホセマリアは 言いました。「それは、否定的な キャンペーンをしたり、何々反対を 叫んだりすることではない。そうで はなくて、楽観に溢れ、若さと喜び と平和に満ちて、肯定をモットーに 生きることである。すべての人を、

すなわちキリストに付き従う人も、 キリストを見放している人や彼を知 らぬ人も、理解する心で見ることで ある | [5]。

「ステファノは、愛徳を武器にし、 あらゆる敵に勝ったのです。神の愛 によってユダヤ人の激怒に立ち向か いました。隣人への愛によって石を 投げる人々のため執り成しを願い、 間違いを犯している人々を弁解しま した。それは彼らが立ち直るためで あり、愛によって石を投げる人々の ため祈ったのは、彼らが罰を受けな いようにするためでした。愛徳の力 を支えにしていたので、サウロの残 酷な激しさを打ち負かし、地上での 迫害者だった人を天国での仲間にす ることができたのです | テ਼ਾਗੋ。 使徒の 元后・聖母マリアに、最初の殉教者 の愛徳と剛毅を与えてくださるよう 願いましょう。

- [1] ルスペの聖フルゲンティウス、 説教3。
- [2] フランシスコ、使徒的勧告「福音の喜び」9-10番。
- [3] 同上11番。
- [4] ルスペの聖フルゲンティウス、 説教3。
- [5] 聖ホセマリア、1930年3月24日手 紙3番。
- [6] 聖ホセマリア、1930年7月21日内 的メモ74番。
- [7] 聖ホセマリア、知識の香72番。
- [8] 同上30番。
- [9] 聖ホセマリア、『拓』864番。
- [10] ルスペの聖フルゲンティウス、 説教3。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-koutan-1226/(2025/12/16)